IRIS Vol.81 Mar.2026

広報アイリス



Illustration by moriuo

CONTENTS

P.01　渋谷区パートナーシップ証明制度10周年
P.03　インタビュー　中川重徳弁護士
　　～パートナーシップ証明制度開始から10周年を迎えて～
P.05　渋谷ジェンダー映画祭
P.09　Pride Month in Shibuya
P.11　ふらっとアイリス
P.13　アイリス講座
P.15　渋谷インクルーシブシティセンター＜アイリス＞について

広報アイリス
バックナンバー

この広報誌の表紙には音声コードが印刷されています。専用の読み上げ装置で読み取ると、記録されている情報を音声で聞くことができます。

祝

SHIBUYA

2015年 – 2025年

渋谷区パートナーシップ証明制度10周年

2015年11月に渋谷区が全国に先駆けて開始した「パートナーシップ証明制度」は、10周年を迎えました（世田谷区も同日に開始）。2025年は制度開始10周年に合わせて、渋谷区ではさまざまな関連イベントを開催。パートナーシップ証明制度導入までの道のりを振り返るとともに、誰もが自分らしく安心して過ごせる渋谷区のこれからを考える1年間でした。

2013年6月
渋谷区議会議員より
渋谷区独自の
パートナーシップ
証明制度発行の提案

渋谷区議会議員
（現区長　長谷部健）
とLGBTQ当事者の出会い

2015年4月1日
「渋谷区男女平等及び
多様性を尊重する社会
を推進する条例」制定

2015年11月5日
渋谷区
パートナーシップ
証明書交付開始

2017年11月
渋谷区
パートナーシップ
証明実態調査を初実施

2020年6月
認定NPO法人
虹色ダイバーシティとともに
全国パートナーシップ制度
共同調査開始

2020年11
公正証書
法律相談

渋谷区パートナーシップ証明制度とは？



「渋谷区人権を尊重し差別なくす社会を推進する条例」*に基づき、渋谷区パートナーシップ証明は、法律上の婚姻とは異なるものの、婚姻関係と異ならない程度の実質を備える二者間の社会生活関係を「パートナーシップ」と定義し、一定の条件を満たした場合にパートナーの関係であることを証明するもの。申請には、原則2種類の公正証書の提出が必要です。

*「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」が「渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する条例」に改正（2024年4月）。

詳細・申請方法

パートナーシップ制度について詳しく知りたい方へ



『同性パートナーシップ証明、はじまりました。
渋谷区・世田谷区の成立物語と手続きの方法』
著・エスムラルダ、KIRA
（ポット出版）



『同性パートナーシップ制度
世界の動向・日本の自治体における導入の実際と展望』

編著・棚村政行、中川重徳
（日本加除出版）

渋谷区パートナーシップ証明制度10周年記念イラスト



「明日」
作・moriuo

本誌の表紙を飾るのは渋谷区パートナーシップ制度10周年を記念し作成したイラスト「明日」。制度の10年の歩みを振り返るとともに、未来に向けた希望とつながりの様子を描いた、制度の意義と成果を伝える作品となっています。

制作には、長年にわたりLGBTQメディアを中心に、恋愛、家族、子育てなどをテーマに作品を手掛けてきたイラストレーターのmoriuoさんに心を込めて描いていただきました。



moriuoさん

作成の
窓口を開設
月

2021年9月
渋谷区SOGIEに関するインクルージョン指針策定

詳細は
こちらから

東京都
パートナーシップ
宣誓制度との連携開始
2022年11月

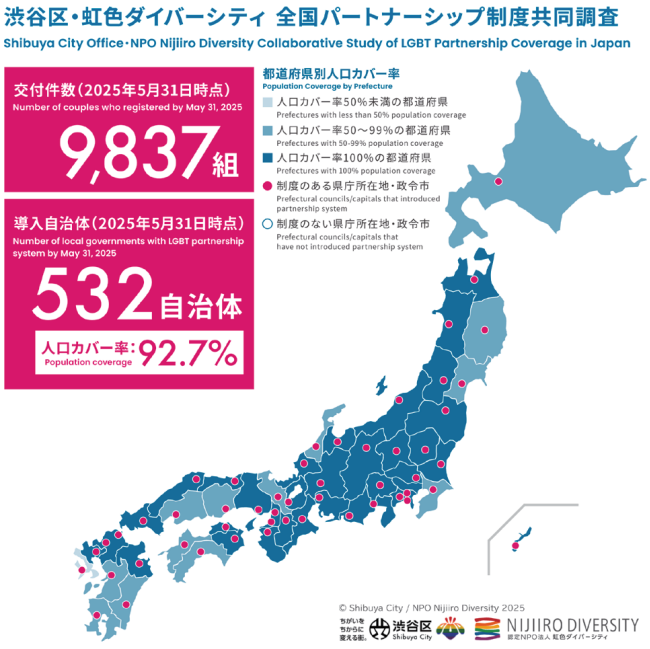
2024年4月
条例改正*（P1参照）によりパートナーシップ証明の対象が同性カップルのみから異性間にも拡大

全国のパートナーシップ
制度導入自治体数が532、
交付件数が9837組に
2025年5月

2025年11月5日
渋谷区
パートナーシップ証明書
交付開始から10年！



全国パートナーシップ制度共同調査



渋谷区は2020年に認定NPO法人虹色ダイバーシティと協定を締結し、共同で制度導入自治体数の調査を行い、普及度合いの可視化をしてきました。現在では全国に制度が広がり、人口カバー率は90％を超えています。当事者ニーズの把握や制度の定着も進み、一定の成果が得られたため、2025年の調査をもって終了しました。

渋谷区は今後も、多様性を尊重する社会の実現に向けて、制度の発展と啓発に取り組んでまいります。

調査の詳細は
右のQRコードから

そこで、まずは当事者の声を聞くという基本に立ち返り、後述のｗｅｂアンケートを行うと同時に、区のＰＳ制度案を批判している人たちも含め、当事者コミュニティのさまざまな方と会って意見を聞きました。諸外国のＰＳ制度について早くから研究してきた早稲田大学の棚村政行先生には推進会議に来ていただき話を伺いました。棚村先生は「相続や税金などの具体的な権利の伴わない『ライトな』ＰＳ制度なのであれば、申請のハードルも低くすべきだ」と議論の方向性を示してくれました。

当事者の思いや専門家からの意見をまとめ、改めて私から区へも申請のハードルを下げられないかと打診しました。しかし、やはり2種類の公正証書が必要という点を変更するのは難しいという判断で、推進会議での議論は決断の時に差し迫っていました。

なぜ申請のハードルを下げることが重要なのかを推進会議や区に改めて伝えるため、いくつかの取り組みを行いました。まず、推進会議委員である杉山文野委員と私で共に実施したＬＧＢＴＱ当事者へのアンケートの結果を推進会議へ提出しました。約７００もの回答が集まり、当事者のさまざまな思いがそこには書かれていました。「制度ができると聞いて本当に嬉しかった」という回答がある一方、「なぜこんなに男女の結婚と違うんだ。納得できない」という意見も多くありました。また、これらの意見はＰＳ制度賛成派、反対派ということではなく、皆が両方の意見を持っているのだということもわかりました。

さらに、レズビアンのカップルに推進会議へ出席いただき、2人の実際の暮らしぶりについて話をしてもらいました。「私たちの関係性を親や親族にどう紹介したらいいのか困っている」「家に遊びに来た友達からは『私たち（異性愛者）と全然変わらないんだね』と言われたのに、法律上結婚できないから後ろ盾がなくて苦労している」・・・

こうした話をきっかけに、推進会議全体が「やっぱりせっかくＰＳ制度を作るなら、なんとかしよう」という同じ気持ちになった気がしました。当事者の声と専門家の知識、そして行政（渋谷区）側の熱意が一つの力になって、最終的には、「区長が特に理由があると認めるときは、この限りでない」という条例の但し書きを使って、公正証書の提出については柔軟に対応できる形にするという結論に至りました。

議論を進めるうえで、大切にしていたことはありますか。

当事者・専門家・行政の三本柱が一緒に取り組むことです。当事者の思い、学者や当事者と共に活動してきた法律家の知識、そして行政の意志がそろえば、必ず道は開けるはずだと信じて、とにかく将来の世代のためにやれるだけのことはしようと思って頑張りました。渋谷区のＰＳ制度はその一例ですが、住民・専門家・行政が力を合わせることは、非常に大切なことだということを私自身あらためて学びました。

ＰＳ制度のこれからについて、お考えをお聞かせください。

ＰＳ制度は、多様な性のあり方や家族のあり方を持つ人々が生活し、仕事をし、家族として暮らしていることの認知度を広める大きな役割を果たしました。それだけではなく、地方自治体の独自の取り組みが、ローカルの問題にとどまらず、日本全体に影響を与えられることを証明しました。諸外国ではＬＧＢＴＱの権利に関するさまざまな取り組みが進んでいますが、日本はやっと社会全体が取り組み始めた段階です。もちろん、自治体がＰＳ制度を進化させたり、ＬＧＢＴＱへの支援を充実させたりすることも大切ですが、この流れを学校、企業、そして社会全体で、法律上同性間でも結婚できるようにすることなど、性の多様性や人権に関わる法律、制度に生かし、つなげていくことが重要です。

現在渋谷区ＰＳ制度を利用されている方や、これから取得を考えている方にメッセージをお願いします。

ＰＳ制度は、多様な*ＳＯＧＩＥの方や家族の形を社会の一員であると自治体が可視化した制度です。特に渋谷区のＰＳ制度では、公正証書の提出が必要となります。ぜひ、この機会にお二人の関係について話し合い、渋谷区で共に暮らすための基盤を築く気持ちで活用していただきたいと思います。



* SOGIE：Sexual Orientation（性的指向）、Gender Identity（性自認）、Gender Expression（ジェンダー表現）の略で、多様な性のありようを表しています。

パートナーシップ証明制度開始から10周年を迎えて

渋谷区パートナーシップ証明制度の施行にあたり、渋谷区男女平等・多様性社会推進会議の委員として“区民が使いやすい制度”となるようご尽力されてきた中川弁護士。制度導入にあたり、どのような議論が行われてきたのかを伺いました。



中川重徳　弁護士

1959年生まれ。弁護士なりたての1990年「府中青年の家」事件に出会い、以来、性的マイノリティの人々の支援に関わる。養護学校の性教育が攻撃された事件の裁判も担当。渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する会議委員。2019年から法律上同性どうしの婚姻を求める「結婚の自由をすべての人に」訴訟やトランスジェンダーの人々の権利や差別に関わる訴訟に参加。

2025年全国パートナーシップ制度共同調査について、率直なご感想をお聞かせください。

2015年に渋谷区と世田谷区から始まったパートナーシップ制度（以下、PS制度）がこのように日本中に広がったことは、とても意味のあることです。全国の自治体が思いを持って制度を導入し、日本全国に制度を利用しているカップルがいると思うと、胸が熱くなります。ただ、PS制度の広まりはあくまで第一歩。性の多様性の尊重について社会全体が変わっていくために、この一歩を次につなげることが重要です。

PS制度導入発表当時のLGBTQ当事者コミュニティや社会情勢はどのような様子でしたか。

LGBTQの人々は長い間、差別をなくし、権利を回復する活動を続けてきましたが、それが行政を含む社会全体の動きにはなかなかつながりませんでした。そんな中、若い世代の人たちも登場しはじめ、渋谷区と世田谷区のPS制度が始まったことで、2015年は日本社会全体がLGBTQの問題に取り組み始めた「元年」になったと思います。当事者の取り組みも、自治体や企業に要望をし、具体的な権利や制度を獲得する段階に入ったのではないでしょうか。

PS制度導入にはどういった思いをもって取り組まれていらっしゃいましたか。

私が渋谷区PS制度の制度づくりに参加したのは、この制度を定めた「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例（現・渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する条例）」成立後からです。成立した条例を読み、日本でもやっとこういう動きが出てきたと思うと同時に、費用などの課題があり、このままでは、効力の弱い制度になってしまうという懸念を持ちました。桑原前区長が、LGBTQ当事者の杉山文野さんと出会い、区議会での質問をきっかけに制度の必要性を認識し、強い思いでPS制度を作ると決断しました。それはとても意味のあることだから、絶対にいいものにしなきゃいけないと感じていました。

渋谷区PS制度は、公正証書の作成により、カップルの関係の真摯性を担保するものとなっています。申請する負担が大きいといった批判もあった中で、どのように渋谷区PS制度の議論を進めていかれたのでしょうか？

渋谷区がPS制度を作ると公表した当初は、当事者からも喜びの声が多く聞かれましたが、条例の全貌が見えてくると「男女の結婚と違いすぎる」「条件が厳しい」といった批判も増えました。最大の問題は、条例で公正証書が原則2種類必要と定められたことで、これにより、費用も時間もかかるため、申請のハードルがとても高いことでした。「男女の結婚に費用はかからないのに、自分たち（同性カップル）だけはお金を払うの？」と思いますよね。

せっかく新しい制度を作るなら、良いものにしたいという思いから、条例の具体的な施行のための規則を検討し、私も委員として参加する「渋谷区男女平等・多様性社会推進会議（以下、推進会議）」で、私の考えた課題や解決案を区や他の委員に提案しましたが、公正証書は2種類必要だという原則は崩せない点で議論は膠着状態になりました。

渋谷ジェンダー映画祭

対話のある映画祭

2025.11.14(金) ~ 16(日)

ジェンダーの視点から、身近なところで起こっている社会課題や人権の問題を考える映画祭。上映後の対話の時間ではそれぞれの感想や思いを持ち寄り、さらに映画の世界を深めます。他人事を自分事へ、その一歩を目指す仲間と出会える映画祭です。

2025年度テーマ

SHIBUYA PRIDE
―これまでも、これからも、誰もが自分らしくいられる街―

パートナーシップ証明制度がスタートして 10 年。この間、LGBTQ への認知度や理解度は高まり、社会の中で数多くのポジティブな変化が生まれてきましたが、一方で激しいバックラッシュ（社会運動や変化に対する反発や抵抗のこと）も世界各地で巻き起こっています。そうした中でこの節目の年を迎えるにあたり、今回の映画祭では 10 周年を祝うだけでなく、これまでの 10 年、そしてその先の未来も、誰もが自分らしくいられる街であるために、渋谷区が、そして渋谷に集う私たちができることを考えました。

10th Anniversary Special Program

渋谷区パートナーシップ証明制度10周年を記念した特別企画を行いました。

Pride Choir Tokyoによるコーラス



映画祭のオープニングイベントでは、LGBTQIA ＋当事者のメンバーで構成された合唱団の Pride Choir Tokyo の皆さんが美しい歌声を届けてくださいました。

「大きなステージで晴れやかな笑顔で歌うメンバーの姿に、『プライド』を感じた！」という感想も寄せられました。

LGBTQイラストレーター moriuoアート展



会場では長年にわたり多様性や共生をテーマに制作活動をしてきた LGBTQ イラストレーターの moriuo さんのアート展を開催。

渋谷区パートナーシップ証明制度の 10 周年を記念して制作いただいた『明日』（P2 参照）も展示しました。

11月14日（金）オープニング作品
『WE EXIST　私たちの居場所』



TALK GUEST



渋谷区長
長谷部健



村木真紀さん



西村宏堂さん



永田龍太郎さん

TALK SESSION
渋谷区パートナーシップ証明制度開始から10年

渋谷区でパートナーシップ証明制度が生まれるまでのストーリー、そして現在に至るまで渋谷区や社会はどのように変化したのかを行政、支援団体、当事者それぞれの視点から振り返りました。

また、渋谷区が認定NPO法人虹色ダイバーシティと行ってきた「全国パートナーシップ制度共同調査」の結果から、自治体施策がどのように進化・拡大していったのか、データを交えながら紹介しました。

参加者の感想

映画に出てくるさまざまな人の声が、自分と重なって涙が止まりませんでした。アフタートークも渋谷区の取り組みが分かって良かったです。



ジェンダー映画祭
2025開催レポート



左から永田さん、村木さん、西村さん、渋谷区長

渋谷ジェンダー平等推進アワード



左から渋谷教育学園渋谷高等学校
菅野さん・寺島さん

従来のジェンダーやセクシュアリティの固定観念にとらわれず、誰もが過ごしやすい社会に寄与する取り組みを募集し、渋谷区全体に発信する取り組みです。

第3回目の開催となる今回は**渋谷教育学園渋谷高等学校の「LAMBDA Coalition 高校生による LGBTQ+ 授業」**が受賞しました。授賞式では、生徒の皆さんがマイクロアグレッション*をテーマに自主制作したショートムービー『バレンタインまであと、3日』の上映も行いました。

* マイクロアグレッション：無意識に発せられる、軽視・侮辱・差別的な言動や態度。

詳細は右のQRコードから

11月15日（土）午前
『CLOSE クロース』



TALK GUEST


副島賢和さん


鈴木茂義さん


アーヤ藍さん

TALK SESSION

かけがえのない命の重さ、
子どもたちと共に考えるために

参加者の感想

現実の世界にもレオのように痛みを抱えている子ども達はきっと沢山いるんだろうな。自分はその子たちの力になってあげることができるのか、考えずにはいられなかったです。

© Menuet / Diaphana Films / Topkapi Films / Versus Production 2022

11月15日（土）午後
『FLEE フリー』



TALK GUEST


サヘル・ローズさん


金辰泰さん


アーヤ藍さん

TALK SESSION

“周縁化”された人々の声を聴くことは、
多様性に満ちた世界を理解すること

参加者の感想

ニュースや新聞で目にすることはあっても、「難民」とならざるをえなかった人について今まで考えたことがありませんでした。日本にも難民として暮らしている人がいると知り、驚いたのと同時に、日本で幸せに暮らせているのか気になりました。

© Final Cut for Real A P S, Sun Creature Studio, Vivement Lundi!, Mostfilm, Mer Film ARTE France, Copenhagen Film Fund, Ryot Films, Vice Studios, VPRO 2021 All rights reserved

グッズ販売　会場で社会に対して良いインパクトを与えるソーシャルグッドな商品の販売を行いました。



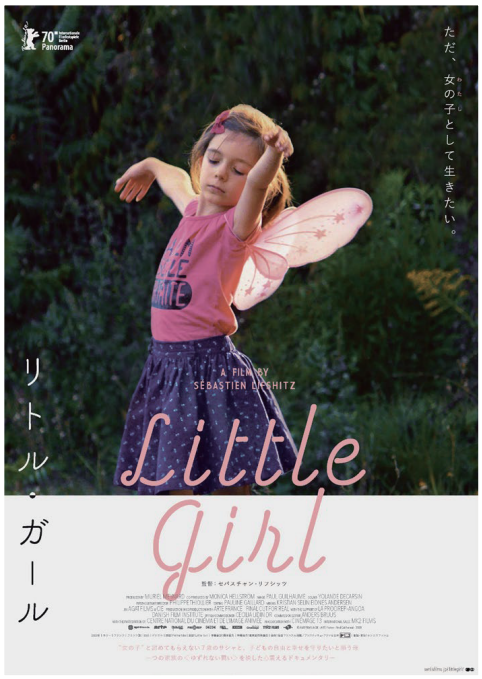




参加団体

特定非営利活動法人
・ヒューマンケアクラブ　ストライド
・福祉作業所ふれんど
・国際協力NGO世界の医療団
・特定非営利活動法人JIM-NET
・ユースセンター100日荘

11月16日（日）午前
『リトル・ガール』



TALK GUEST


高井ゆと里さん


若林佑真さん


アーヤ藍さん

TALK SESSION

その議論、その制度、その配慮は誰のためのもの？

参加者の感想

当事者ではないから見えなかった世界について、無関心だったということに気が付きました。本人の意思だけではどうにもならない社会構造によって、学びの場や、働く場で存在することすら難しくなるというのは、やっぱりおかしいことだなと…。

© AGAT FILMS & CIE – ARTE France – Final Cut For real – 2020

11月16日（日）午後
『これからの私たち ALL Shall Be Well』



TALK GUEST


レイ・ヨン監督


中川重徳さん


おおとも
かぐみこさん


オリビエ・
ファーブルさん

TALK SESSION

『制度でなければ変えられないもの、
制度だけでは変えられないもの』

参加者の感想

自分も幸せになる権利があるはずなのに、パートナーにもしもの時があった場合に、法律は守ってくれないんだ… 分かってはいたけれど、映画を観て辛くなりました。日本でも早く同性婚を認めてほしい！

©2023 Mise_en_Scene_filmproduction

フードドライブ

昨年度から映画祭の開催期間中にフードドライブを実施しています。今年は3日間で125品の食品が集まりました。お寄せいただいた食品は渋谷区社会福祉協議会を通じて、生活や食事にお困りの方へお届けしました。



PRIDE MONTH in SHIBUYA

毎年6月は世界各地でLGBTQの権利の啓発に取り組む「プライド月間」です。LGBTQコミュニティの権利と性の多様性を祝うパレードや啓発イベントが世界中で開催されています。渋谷区でもさまざまなLGBTQ関連イベントが開催されました。

Tokyo Pride 2025 大学と協働でブースを出展しました

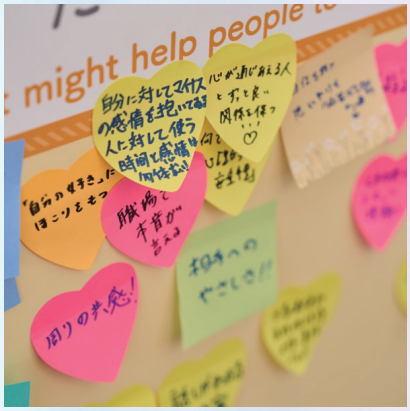
2025年で14回目を迎えるアジア最大級のLGBTQイベント「Tokyo Pride」。LGBTQに関わる多様な人権課題の解決を目指して開催されています。

渋谷区は今回も区内の4大学（青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター、実践女子大学、聖心女子大学グローバル共生研究所、津田塾大学）と協働でブースを出展し、区や大学が行う居場所づくり事業のヒントを得るため、「自分らしさ度」調査を実施しました。









区内大学でのLGBTQ関連イベント

聖心女子大学グローバル共生研究所と津田塾大学では性の多様性をテーマとする書籍を取り扱う読書会「にじいろ読書カフェ」を開催しました。

取り扱った書籍
- 『須永朝彦小説選』須永朝彦/山尾悠子編（筑摩書房）
- 『星月夜』李琴峰（集英社）







青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターでは「クィア・ライブラリー・ウィークス」を初開催。文学を通じてジェンダーやセクシュアリティについて考えるワークショップや特設コーナーが設置されました。

LGBTQと
アライのための

コミュニティスペース しぶにじ

LGBTQコミュニティスペース・しぶにじはLGBTQとアライ*のためのコミュニティスペース。
マンガやゲームなどを置いているため、ひとりの時間も、みんなとの時間も楽しめる場所です。
今年度は毎月さまざまなイベントを企画し、参加者同士の交流を深めました。

* アライ（Ally）：支援者、味方という意味で「LGBTQ も生きやすい社会」を願う人を表す言葉。

4月：『ジョージ・ストーンの夢に見た人生』上映会

ティーン活動家として、トランスジェンダーの権利のために闘ってきたジョージ・ストーンと家族を追ったドキュメンタリー映画を観た後に、感想をシェアしました。

5月：カラフルキーホルダーづくり

6月のTokyo Prideに向けて、レインボーフラッグなどをモチーフにしたキーホルダーを作りました。



6月：『沖縄カミングアウト物語　かつきママのハグ×２珍道中』上映会＆トークセッション

映画の撮影と英語字幕作成を担当されたオリビエ・ファーブルさんをお招きし、ご自身の体験も交えながら日本国内や世界のカミングアウト事情についてお話いただきました。
Tokyo Pride2025で協働した実践女子大学の学生さんにもボランティアでご協力いただきました！



オリビエさん

７月：ばんめしアイリス①

“ばんめし”をみんなで一緒に食べようというこの企画。
それぞれに自分の食べたいものを持ち寄り、おしゃべりを楽しみながら夜のひと時を過ごしました。

８月：お洋服交換会

お洋服を交換しながら、お互いにスタイリングのアドバイスをしたり、ファッション談議に花が咲きました！



９月：ビブリオバトル

それぞれの推し本を紹介！それぞれの個性が光っていました。

10月：ALL ABOUT WICKED!

ミュージカルは20回も観たかどっち（門倉貴志さん）のナビゲートのもと、ウィキッドの世界を深掘り。ウィキッドの制作秘話や映画に隠された『オズの魔法使い』へのオマージュなどを教えてもらいました。

11月：ばんめしアイリス②

12月：ゲーム大会　ビンゴやカードゲームなどで会場は白熱！

1月：書初め会

新しい年への思いを漢字一文字に込めて書きました。



2月：ばんめしアイリス③

3月：オノマトペカフェ

なかなか言葉にできないモヤモヤやドキドキについておしゃべりしました。

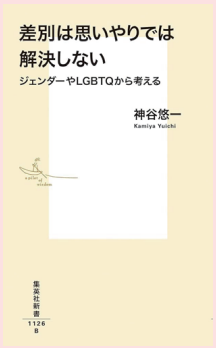


ふらっとアイリス

アイリスでは対話と会話を楽しむさまざまなプログラムを毎月開催しています。

読書会

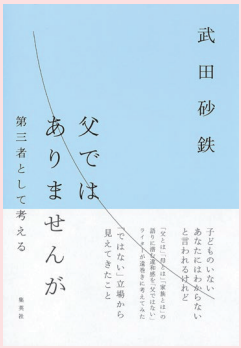
月1回、ジェンダーをテーマにした本を2カ月かけて読み解き、
日常にある「なぜ？」を参加者のみなさんと共に考えていきます。



『差別は思いやりでは解決しない
ジェンダーやLGBTQから考える』
神谷悠一／集英社新書



『女の子たち風船爆弾をつくる』
小林エリカ／文芸春秋



『父ではありませんが
第三者として考える』
武田砂鉄／集英社





『マイノリティの「つながらない権利」』
雁屋優／明石書店



『海をあげる』
上間陽子／筑摩書房

2025年は戦後80年だったということもあり、ジェンダーという視点に加えて、戦争や戦争が引き起こした影響について考えさせられる2冊（『女の子たち風船爆弾をつくる』『海をあげる』）を選出しました。

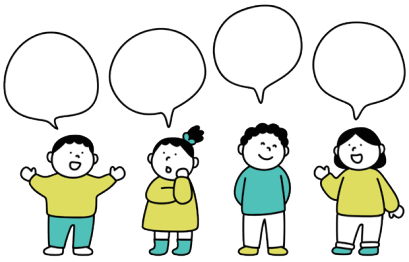
参加者の中には、テーマにまつわる資料館を訪問したり、関連する別の本での学びを共有したりしてくださる方もいて、学びが一層深まりました。

1人での読書も楽しいですが、みんなで読むからこその面白さを実感できました。

哲学カフェ

素朴な問題や身近な事柄について問いを立て、対話をし、
考えを深める場です。

毎回、性別も、年代もさまざまな人が参加するこのプログラム。色々な違いがある人と対話をし、話を聞き合うからこそ、それぞれの「当たり前」や「思い込み」を問い直すことができます。今年度もSOGIEを含む人権の視点から、日常にあるさまざまな「問い」を考えました。

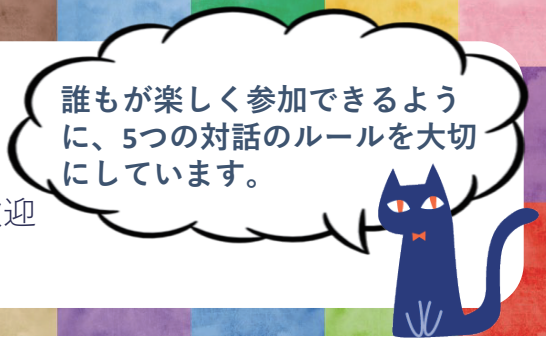


今年度のテーマ

公共・犠牲・メメントモリ*・親子・ケア・卒業

*メメントモリ: ラテン語で「死を想え」

①参加する人への敬意を忘れない
②人の話はさえぎらない
③この場の会話は“ここだけ”で
④上手くまとまらない気持ちや、言葉にできない思いも大歓迎
⑤無理に話さなくても大丈夫



のんびりフィーカ

今年度から始まった新しいプログラム！目的や結論、答えを求めず言葉を重ねていきます。

フィーカとはコーヒーを飲みながらのんびりと話すことを楽しむスウェーデン発祥の文化。このプログラムではそんなスウェーデンの素敵な文化と、トーキングサークルという対話の手法を取り入れて、好きな飲み物を飲みながら参加者がお互いの言葉に耳を傾ける時間を楽しんでいます。

企画・運営しているのはアイリスで開催している「対話のまちづくりコーディネーター講座」* の卒業生たち（ベーシックコース・アドバンスコースの計72時間修了）。ボディワークを中心とした『身体で感じたことを話してみよう』や、よりじっくり参加者の皆さんのお声を聴くことができる『対話のまちづくり☆カーニバル』という特別プログラムも実施しました。

* 対話のまちづくりコーディネーター講座：2022年度から開催している講座で、オープンダイアローグとトラウマインフォームドケアを軸に、さまざまな対話の手法を学び、地域の中で水平で安心安全な対話の場を作る実践者の育成を行っています。

～運営メンバーからの声～


ちかさん、まなさん、しおりさん

話したい、聞きたいというニーズがあるということ、自分のことを自分の言葉で話したいという人が多いことに気が付きました。そして、そういう場が日常の中では、まだまだ少ないのかなと感じます。

これまで子どもから大人まで、さまざまな年代の人や背景を持つ人が参加してくれたのですが、いろんな人が混ざって話すって面白い。対話の場を提供するというよりは、私たち運営メンバーもトーキングサークルを楽しんでいるし、講座で一緒に学んだ仲間と定期的に会えるのも楽しみです。

おしゃべりハンドメイドたいむ

お茶を飲んだり、おしゃべりをしたりしながら、ハンドメイドに取り組みます。

おしゃべりをしながら、それぞれの作りたいものに向き合う時間。
編み物をする人や刺繍をする人、塗り絵をする人、今年度も沢山のステキな作品が生まれました。顔を向かい合わせるのではなく、手作業をしながらの会話だと、思わず本音や日頃の悩みがポロリと出てくることも。







アイリス講座

渋谷インクルーシブシティセンターでは人権やジェンダー・セクシュアリティに関するさまざまな講座を開催しています。

せんそうって　8月3日 (日) 14時～16時



左から八木咲さんと永井玲衣さん

2025年は終戦から80年。再び戦地となることなく日本はこの節目の年を迎えることができました。しかし、この間に日本が戦争と全く無関係だったわけではありません。

この講座では、「せんそう」について表現を通して対話する「せんそうってプロジェクト」の八木咲さんと永井玲衣さんのユニットをお迎えし、参加者同士で「せんそう」について、対話しました。

また、会場内では写真家である八木さんの作品も展示されました。



参加者の感想

「戦争における主語を明確にしていく必要性を強く感じた。日本の加害性についても考えていきたい。」

それぞれのモグモグ みんなでいただきます

12月13日 (土) 14時～16時



永峰　玲子さんと楓音さん



末岡　真理子さん

「摂食嚥下障がい」・・・病気や加齢等が原因で噛む力や、飲み込む力が弱く、食事や水分などがうまく食べられない、飲み込めないような状態をいいます。この障がいの認知度は低く、この障がいのある人の外出や外食を阻むハードルが社会の中には沢山あります。

この講座では、摂食嚥下障がいのある子どもを育てながら、インクルーシブな社会を創ることを目標に活動されている永峰玲子さんと食卓を通じた場づくりに取り組まれてきた末岡真理子さんをお招きし、誰もが地域の中で共においしい時間を楽しめる場づくりのアイディアや工夫を考えました。

障がいのある方の外出時の困りごとの１つとして、トイレの問題についても教えていただきました。障がいや病気でおむつを利用している方は、大人が利用できる多目的シートが設置されているトイレがあると安心して外出できます。しかし、多目的シートがあってもその表示がないことが多く、文化総合センター大和田８階のトイレも同様だったため、この講座をきっかけに多目的シートのピクトグラムを追加しました。



生きづらさの背景を考える　2月1日 (日) 14時～16時20分

「取り残された人々：日本におけるシングルマザーの苦境」上映会



日本の子どもの約９人に１人が貧困状態です。特に母子家庭の就業率は８６％と非常に高いものの、平均年間就労収入は２３６万円にとどまっており、約５割の世帯が貧困に直面しています。

この講座では、シングルマザーのリアルに迫ったドキュメンタリー映画『取り残された人々：日本におけるシングルマザーの苦境』を上映。また、上映後にはシングルマザーの相談支援に携わっている弁護士の佐藤祐子さんをアフタートークにお迎えし、日本のシングルマザーが置かれている現状や社会構造に目を向けました。

映画「カムイのうた」上映会

3月7日 (土) 14時～16時15分







アイヌ民族が口頭伝承してきたユーカラ（詩物語）を『アイヌ神謡集』として日本語訳した知里幸恵さんの半生を描く実話を基にした物語。映画鑑賞を通してアイヌやアイヌ文化に対する迫害や差別の歴史を学び、これからの多文化共生のあり方を考えました。

知里幸恵さんについて

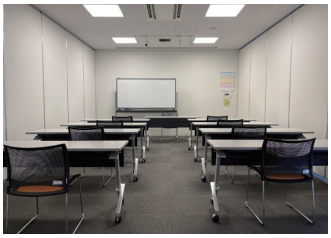
『アイヌ神謡集』の著者。初めてアイヌの物語を文字化し、そのアイヌ語表記や対訳、序文は高い評価を受けている。アイヌとしての民族意識を持って言語と文化を伝えた彼女の精神は、没後も多くの人々に感銘を与え続けている。

「カムイのうた」©シネボイス

渋谷インクルーシブシティセンター＜アイリス＞

渋谷インクルーシブシティセンター＜アイリス＞は、ジェンダーやセクシュアリティなど、人権を尊重し差別をなくす社会を推進するための学習・活動・交流および情報提供の拠点となる施設です。

会議室



学習や会議などに利用できます。利用には渋谷区施設予約システムからの予約が必要です。

渋谷区施設予約システム

交流のひろば



予約不要で、学習や交流に使用できるスペースです。



情報ライブラリー



ジェンダーやLGBTQをはじめとした、人権に関する書籍、行政資料を中心に揃えています。

アイリス相談

法律相談

離婚、人権、相続、土地、財産、パートナーシップ証明に必要な公正証書など

原則第2、4火曜
13時～16時（1人50分）

悩みごと何でも相談

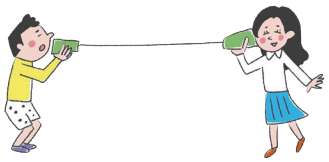
セクハラ、DV、デートDV、人間関係、家族の問題、心の問題など

原則第3、4金曜
13時～16時（1人50分）

LGBTQにじいろ電話相談

パートナーや家族、友人との関係、職場や学校での問題など

原則第2、4土曜
13時～16時（1人30分）
TEL　03-3464-3401



法律相談と悩みごと何でも相談は予約が必要です。
予約は月ごとに月初の開館日の9:00から電話で受け付けます。
予約TEL　**03-3464-3395**

渋谷インクルーシブシティセンター〈アイリス〉

渋谷区桜丘町23-21　渋谷区文化総合センター大和田8階
TEL:03-3464-3395/ FAX:03-3464-3398
開館時間　9:00～21:00（日曜は17:00まで）
休 館 日　月曜日、第3日曜日、祝日の翌日、年末年始（12/29～翌年1/3）





その他の相談

人権擁護相談

不当な扱い・いやがらせなど人権侵害と思われることについて

対象　渋谷区在住
　　または在勤の人
毎月第2金曜日（祝日を除く）
　　14時～16時
時間内に来館もしくは電話
TEL　03-3464-3395

アイリスHP　Facebook　X　YouTube

表紙のフォントにはシブヤフォントを使用しています。シブヤフォントは、渋谷でくらし・はたらく障がいのある人の描いた文字や数字を、渋谷でまなぶ学生がフォントとしてデザインしたパブリックデータです。

イラスト/山中正大